

南極から附中へ

南極観測隊員のつぶやき

令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校
校長通信 第24号 令和2年5月21日



○南極に挑戦した観測船たち

・今回は、南極観測船「宗谷」についてお話しします。「宗谷」は東京の台場に係留されています。船の科学館の展示として見学することができます（たぶん無料）。日本科学未来館の近くにありますので、見学したことがあるひともいるかもしれません。海上保安庁の船で、現在でも船籍は残っています、時々訓練に使用されているそうです。日本の船で初めてヘリコプターを搭載したことも有名です。船体の色はアラートオレンジと呼ばれ、現在まで南極観測船はこの色を使用し続けています。1938年に進水し、1978年まで使用されました。この間、第1次南極観測隊（1956年）から第6次（1962年）まで南極観測船として使用されています。この船の生涯は1984年に「宗谷物語」としてアニメ化されています。桜林美佐さんの『奇跡の船「宗谷」』（校長文庫にあります）にも書かれています。



<南極観測船「宗谷」>

・第1次南極地域観測隊は、1956年11月に東京晴海ふ頭から、観測隊員51名、船の乗組員76名、樺太犬22頭（タロ・ジロを含む）、ねこ1匹（タケシ、観測隊長と同じ名前でもって可愛がられたようです）、2羽のカナリアを乗せて出航しています。カナリアを連れて行った理由は、新規に建築する昭和基地は密閉性がとっても良いため、暖房による一酸化炭素中毒を早期に知るためと言われています。「宗谷」は南極へ向かう途中、片舷最大69度傾いたそうです。大きく揺れる船の中でどのように食事をしていたのでしょうかね。



<南極観測50年記念硬貨>

・南極観測船は、現在も11月に東京晴海ふ頭から出航しています。観測船が出港すると、間もなくレインボーブリッジをくぐりますが、その時、「宗谷」は汽笛を鳴らします。これに応え、観測船も汽笛を鳴らします。



<宗谷の食堂（船の科学館）>